

日本ビジネス実務学会 中国・四国ブロック会報 第38号

Bulletin of the Japan Society of Applied Business Studies,
Chugoku-Shikoku Bloc, No. 38

発行日: 2025年3月31日
編集責任者: 金岡敬子(山陽女子短期大学)
事務局: 〒738-8504 広島県廿日市市佐方本町1-1
URL: <http://www.jsabs.gr.jp/meeting/chugoku-shikoku/>

ブロックリーダーより 金岡敬子(山陽女子短期大学)



2024年の中国・四国ブロックでは、広島市の安田女子大学・短期大学で第43回日本ビジネス実務学会の全国大会を開催するという一大イベントがありました。

実行委員の人数も少ない状況の中で、当日はそれぞれの担当業務を超えて、細部にまで行き届いた対応とご尽力を頂き、無事に終えることができました。ブロックの実行委員の皆様方大変お世話になり、ありがとうございました。

また、全国各地からご出席いただきました会長、理事、会員の皆様方の心温まるサポートのおかげで、次のブロックに滞りなくバトンタッチすることができましたこと改めてお礼と共に感謝申し上げます。

さて、まだ全国大会で先生方との活発な意見交換をした余韻も残っていましたが2か月後には、中国・四国ブロック研究会を岡山で開催いたしました。本ブロック研究会は、年1回対面で8月下旬に当番校を決めて実施しております。

昨年度の第40回中国・四国ブロック研究会は、瀬戸内の海を渡り四国大学短期大学で実施しましたが、第41回ブロック研究会は、岡山県で開催いたしました。今回当番校として担当して下さった佐々木先生は、お一人で企画・運営をしていただき、PBLについてのご研究・ご発表の時間には、出席された先生方と活発な意見交換をしていただく機会となりました。

今後も年1回実施する対面でのブロック研究会が活発な意見交換と情報共有の場として担えるよう、そして研究会の出席者にとって魅力ある企画となるよう、ブロックの会員の皆様方のお力をお借りできればと思っております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

ブロック研究会・当番校を代表して 佐々木公之(中国学園大学)



第41回中国・四国ブロック研究会は、2024年8月24日(土)、25日(日)の2日間、中国学園大学9号館3階と岡山後楽園、岡山城にて開催されました。中国学園大学9号館は、私が所属する国際教養学部が使用する教室で、PBLの実践事例やゼミナールでの研究成果が掲示されています。研究会では、4件の研究発表(内、1件録画発表)・4件の学生プレゼン大会を実施しました。

今回、はじめての試みとして、毎年行われていた招待講演に代わり、PBL研修会を開催しました。これは、2022年に産官学が連携し、岡山市を代表する観光地である「岡山後楽園」「岡山城」のプロモーション動画を8か国語で制作したPBLの実践事例になります。このPBL研修では、岡山城等でのフィールドワークを通じて実践事例の説明とPBL実施する上での注意点などを共有できればと思い企画しました。懇親会では、岡山ブランド豚「ピーチポーク」のしゃぶしゃぶや瀬戸内の魚を食べていただき大いに盛り上がり嬉しく思いました。

お忙しい中ご参加・ご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

日本ビジネス実務学会
第 41 回 中国・四国ブロック研究会 プログラム

(2024 年 8 月 24 日・8 月 25 日 於：中国学園大学 9 号館 3 階 9301)

【8 月 24 日 (土)】	
12:30~	受付
13:00~	開会の挨拶 当番校挨拶 事務連絡 ブロックリーダー 金岡 敬子 佐々木 公之 立花 知香
13:10~	総会 (20 分)
第 19 回学生プレゼンテーション大会 (発表: 5 分) 司会: 名和 晋也	
13:30~	① 「大学祭実行委員として - 取り組みを通して学んだこと-」 山陽女子短期大学 人間生活学科 2 年 福馬 知恵 ② 「大学生活で必要なリーダーシップとは - 経験と学びから-」 山陽女子短期大学 人間生活学科 2 年 檜木 葵依 ③ 「ゼミナールで地域活性化に取り組んでの学びの成長」 中国学園大学 国際教養学部 3 年 佐藤 幸斗 ④ 「美咲町の地域活性化提案と地域での学び」 中国学園大学 国際教養学科 3 年 永元 健士朗
14:00~	学生プレゼンテーション大会の表彰・総括
研究発表 (発表 20 分・質疑応答 10 分) 司会: 堀口 誠信	
14:10~	① 「ビジネス実務教育における社会学的考察 - 芸術系大学の事例を踏まえ人的資本理論を中心にして-」 大阪成蹊大学 福本 章 先生
14:40~	② 「観光系高等教育機関での観光人材育成に求められる視点 - 観光産業新入社員への半構造化インタビュー調査を用いて-」 せとうち観光専門職短期大学 合田 美稀 先生
15:10~	休憩 (10 分)
15:20~	③ 「コロナ後の就職活動の変化についての一考察 - 大学生と企業の視点から -」 山陽女子短期大学 金岡 敬子 先生
15:50~	④ 「PBL で久米南町の地域活性化に取り組んでの効果検証」 中国学園大学 佐々木 公之 先生
16:20~	事務連絡
18:00~	プレ PBL 研修会 岡山後楽園 (岡山市北区後楽園 1-5) * 希望者のみ
19:30~	懇親会 (於: 炉端焼き Gorilla (ゴリラ) 岡山市北区田町 2 丁目 10-13)

【8 月 25 日 (日)】	
8:40~	岡山駅集合
9:00~	PBL 研修会 9:00 ~ 岡山城視察 (岡山市北区丸の内 2 丁目 3-1) 10:00 ~ 岡山城備前焼工房 (岡山市北区丸の内 2 丁目 3-1) 11:00 ~ 岡山市立オリエント美術館 (表岡山市北区天神町 9-3 1) PBL 実践事例「YouTube を活用して多言語での岡山市と周辺地域の魅力発信」 令和 4 年度学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト (岡山市) グランプリ受賞 協力: おかやま観光コンベンション協会 (担当: 中国学園大学 佐々木公之)

研究発表概要一覧 発表者氏名、所属、タイトル、研究領域（→で表示）、発表概要の順

福本章(大阪成蹊大学)

「ビジネス実務教育における社会学的考察—芸術系大学の事例を踏まえ人的資本理論を中心にして—」
→【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究

1. 概要

芸術系大学では、大部分の学生がクリエイターを中心とした専門職として就職するケースが増えています。インターネットが普及する以前は、芸術大学を卒業生は芸術家、研究者、教員を目指す以外では正社員で就職する者は多くありませんでした。しかし昨今はゲーム業界、漫画、アニメ業界をはじめとしてインターネットに携わるデザイン関係の仕事では芸術系大学の卒業生が多く活躍しています。

本研究は、社会学の視点から、ビジネス実務教育を考察して行くことを目的としています。例として、芸術系大学の卒業生が労働市場で必要とされるスキルや知識を習得するための機能を果たす為のビジネス実務として芸術系大学での学びの視点から紐解いていきます。

2. 先行研究

パーソンズ(Parsons, Talcott 1902-1979)と、マートン(Merton, Robert, King 1910-2003)の構造機能主義(Functionalism)では、「構造」について、社会を構成する諸要素として普遍的なものとされています。これを産業界で求められるビジネス実務として問えることができます。また「機能」とは「構造」に対して果たす作用と定義されています。

また、ゲーリー・ベッカー(Gary Stanley Becker, 1930-2014)は、人的資本理論(Human Capital Theory)を提唱しています。人を資本とみなし、投資すれば必ず見返りがあるという前提に立つものです。人的資源管理(Human Resource Management, HRM)は、組織の目標を効果的に達成するために人的資源を管理の対象としてマネジメント手法として人的資本理論の理論的な根拠になっています。

3. 考察

芸術系大学における構造機能主義の事例は、芸術教育がどのように社会の安定と発展に寄与するかを示すものと考え、ビジネス実務としての事例を挙げて考察しています。

- 1) 伝統的な芸術・文化を学ことで地域や国際的視点でも文化の継承の役割を担っています。
- 2) PBL の授業での取り組みでは、芸術を活かす提案や企画案を発信することから学生は創造力や課題解決力を醸成し、実社会との連携を深める事に繋がっています。
- 3) 芸術を通して社会問題をアートによって実社会に発信することで社会的な意識を高めています。
- 4) 芸術系大学では、デザイン、映像制作、ゲーム開発などのクリエイティブインダストリーに特化したプログラムを提供することで、学生が将来のキャリアを築くためのスキルを習得しています。機能として、卒業生はビジネス実務が求められる産業界において、経済的な価値を創出しています。クリエイティブ産業は、経済の発展にも寄与して雇用を生み出しています。そういった視点において経済的な価値を創出していると考えられます。
- 5) 学生は、自身が取り組むアートプロジェクトを企画、また個展の開催や作品の出版活動などを行います。これらを機能とする視点で鑑みると、自己表現力を育み、自己実現を達成しています。その結果として、個々の満足感を高め、社会全体としての幸福度を高めることに寄与しているとも捉える事ができます。

4. 結論

芸術系大学における構造機能主義の実践事例として、教育活動が社会の多くの側面に如何に貢献するのかを考察しました。これらの事例では、芸術教育が文化の継承、創造的能力の育成、社会批判と変革の促進、経済的価値の創出、そして個人の自己実現を通じて社会全体の安定と発展に寄与することを明らかにしています。これら社会学的考察について、人的資本理論を踏まえて考察しています。

合田 美稀(せとうち観光専門職短期大学)

『『観光系高等教育機関での観光人材育成に求められる視点』—新卒者への半構造化インタビュー調査を用いて—』 →【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究

1. 概要

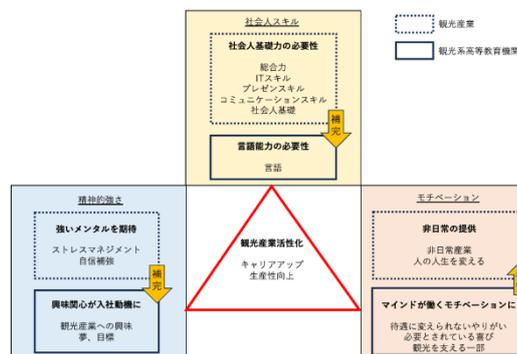
本研究では、観光系高等教育機関の学生は観光産業に何を求め、観光産業は観光系高等教育機関の学生に何を期待しているのかを分析するため、M-GTAを用いて分析を行いました。対象者は、観光系高等教育機関で教育を受け観光産業に就職した人、もしくはしていた3年以内の若手6名と、観光産業(航空会社、鉄道会社、旅行会社、ホテル会社)の人事や取締役5名である。観光系高等教育機関の学生と観光産業側の人材に関するミスマッチを中心に分析を行いました。

2. 先行研究

森下(2018)は、観光産業497社のアンケート調査から、マナーとコミュニケーション力を求める観光産業と、観光地などの実務知識やプレゼン力を重視する観光系高等教育機関の教育で、ミスマッチが生じていると述べていました。さらに、「高等教育機関における観光教育システムのあり方に関する調査報告書」(国土交通省, 2005)によれば、観光関連業界の人材ニーズと大学側の教育内容にミスマッチがあると指摘されており、対策として「観光系大学におけるカリキュラムの充実」や「インターンシップの拡充」の必要性が提唱されています。

3. 調査結果

- ①観光産業では、観光業界に特化した知識は不要で一般的な社会人基礎力が求められている
- ②ミスマッチは、精神的強さに関すること、社会人スキルに関すること、モチベーションに関すること、について生じている
- ③精神的強さに関することについては、学生のうちにストレスマネジメントを学んでおくことが必要
- ④社会人スキルに関することについては、現場の業務だけでなく、管理職業務なども学生に学ばせ、社会人スキルの必要性について理解させることが必要
- ⑤モチベーションに関することについては、観光産業側が、喜びややりがいを提供することが必要
- ⑥観光系高等教育機関での教育が、観光産業入社後のモチベーションに影響している



4. 考察

観光系高等教育機関での教育が入社後のモチベーションに影響を与えていました。本研究では、精神的強さに関すること、社会人スキルに関すること、モチベーションに関することについて、観光系高等教育機関と観光産業側で、互いに補完すべき点を明確にすることができました。これらを補完し合うことで、キャリアアップや生産性向上を通して、観光産業の活性化につながる事が明らかとなりました。今後は観光系高等教育機関にもインタビュー調査を行い、三者間での関係性を明らかにしていきたいと思ひます。

金岡 敬子(山陽女子短期大学)

「コロナ後の就職活動の変化についての一考察 ―大学生と企業の視点から―」 →【1】ビジネス実務研究
1)ビジネス環境とビジネス実務

1. 研究の目的

本研究は、コロナ禍の2020年4月に入学した学生について、2024年3月までの4年間、もしくは2022年3月まで短期大学2年間を過ごした学生の就職活動についての調査と考察を行うことを目的としています。2020年4月以降、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、生活様式が一変しました。当初、各大学ではキャンパスを閉鎖し、対面授業からオンラインによる遠隔授業を余儀なくされました。学生は、これまでの対面による人とのかかわりができない状況により、教員や同級生に教室で直接会って話をすることもできなくなる期間が長く続きました。さらに、学生はアルバイトも思うようにできないことによる経済的な不安も抱えながら大学生生活を送る期間を過ごすことになりました。

入学後、お互いに対面でのコミュニケーションの機会を持つことやサークルなどに参加して活動することもできないことや、インターンシップ等の社会と直接かかわる機会も難しい状況の中で、二年間あるいは四年間を過ごしました。四年制大学の学生は2024年3月に就職の時期を迎えました。

学生は、他者と直接かかわることが希薄になった期間を長く経験したのち、どのような意識で就職活動を行ったのか、そして、採用側の企業はどのような採用基準で採用をすることになったのか、今後の学生の就職活動に向けての調査を行います。

2. 調査方法

コロナ禍による人と関わるのが希薄となった学生について、①学生の状況についての調査は量的調査、②採用者側についてはインタビューによる質的調査を行うことで、学生の就職活動に関する意識調査と採用者側の採用方法などの変化を調査し、今後の就職活動がどのように変化していくのかについて考察します。

コロナ禍以後働き方も大きく変化しました。人とのかかわり方が変化したことで、学生側と採用者側双方の就職活動がどのように影響し、今後の採用方法がどのように変化していくのかについても学生の意識変化と共に考察を行います。

その調査方法としては

1. 学生側の視点として

短期大学3校(92名)、四年制大学3校(165名)のアンケート調査用紙による量的調査

2. 企業側の視点として

15社のインタビューによる質的調査を実施し、コロナ禍、コロナ禍後の採用試験の状況について、そして採用した人材についての就職後の状況についての調査

3. 考察とまとめ

2023年4月と2024年4月に調査した学生のアンケート調査結果から、就職活動の問題点について、多くの不安を抱えていたことがうかがえました。学生の就職活動もコロナ禍以降多様化しており、これまでの就職活動から大きく変化をしています。

教員側もその変化に対応するために企業の就職担当者とも情報共有・情報交換を行い、学生の学びの多様性にも配慮した人材育成が必要となります。まずは、学生の現状について十分理解をすることが今後より一層求められます。

佐々木公之(中国学園大学)
PBLで久米南町の地域活性化に取り組んでの効果検証
→【1】ビジネス実務教育 3)教育方法の研究

1. 2つのPBL

PBLは、「問題解決型学習」もしくは「課題解決型学習」と言われている。PBLの「P」はProblem、Projectの2つの意味をあわせもっており、PBLには、問題解決学習(Problem-based learning)とプロジェクト学習(Project-based learning)の2つのパターンがあります。

問題解決学習は、実社会で直面するであろう問題やシナリオを教員が学生に与え、それに対して学生たちが問いや仮説を立てる。そして、知っている知識と知らない知識を分別・調査し、不足している知識を見定め、新たな知識を習得する自己主導型学習です。一方、プロジェクト学習は、実在する問題に対して仮説を立て、先行研究やデータを収集し、データ分析結果などを考察する。最終的に、成果物の発表やレポート作成を行う。問題解決に関する思考力、協働学習等の能力や態度を身につけられる学習法になります。

2. 久米南町でのPBL

2020年より、中国学園大学国際教養学部佐々木ゼミ(以下、本ゼミ)では、岡山県の久米南町にてプロジェクト型PBLに取り組んでいます。久米南町でのPBLのきっかけは、ゼミ生の一人が、学生時代に祖父母が暮らした久米南町下鞆地区(以下、下鞆地区)の地域活性化の取り組みがしたいと直訴し、他のゼミ生が賛同し始めました。

3. PBLの活動内容

2020年からの3年間は、下鞆地区を取り組み、住民や役場と協力しながら村の魅力を見つけ出し、学生の感性を活かしてYouTube動画を制作し情報発信を行いました。また、田植えや稲刈りなどの農業体験に参加し、交流を深めました。2022年には、下鞆地区で収穫された小豆を使った新商品開発(カラフルオーガニックぜんざい)に取り組みました。さらに、2つの高校と高大連携を締結し、ロケットストーブの制作や農産物販売など取り組みも行いました。

2023年は、多言語(4カ国語)でのPV制作や市場で流通されない規格外野菜を有名ホテルの料理長とコラボし、新商品開発などに取り組みました。また、久米南町を活性化させるビジネスプラン(久米南町「食」のサブスクリプションサービス)を作成しました。

4. 本PBLの効果検証

①教育効果は、PBLに参加した学生へのアンケート調査から、社会人基礎力とビジネスマナーでの成長に効果があることが明らかになりました。また、多くの学生が久米南町をテーマとした卒業論文を作成し、プロジェクトが個々の教育に直結しています。

②大学への効果として、オリジナリティの高い教育の提供ができました。また、5年間で7件2,900千円の外部資金を得ることができました。2022年には、このPBLをキッカケに、久米南町と中国学園との包括連携協定を締結しました。

③久米南町への効果は、農作業や夏祭りのサポートによる人手不足の解消に効果がありました。また、学生と有名シェフと開発した新商品は、実際にホテルの朝食やパフェとして販売されています。さらに、久米南町を活性化するビジネスアイデアは、地方創生担当大臣賞などを受賞しました。

地域活性化を目的に、久米南町で取り組んでいるPBLは、多方面で大変多くの有益な効果があると考察します。



日本ビジネス実務学会 中国・四国ブロック研究会
第19回 学生プレゼンテーション大会

発表概要

山陽女子短期大学短期大学部・人間生活学科2年 福馬 知恵

「大学祭実行委員として ー取り組みを通して学んだことー」

私は、昨年から大学祭実行委員会に入っています。今年は、副委員長として運営に携わっています。大学祭の運営では、困難なことや大変さにも直面していますが、多くの経験を通して学んだことや、本学でしか得られないことが多くあります。工夫をしながら取り組むことで感じたことや身についたスキル、そして、四年制大学での大学祭と異なる点についても発表したいと思います。

(指導者山陽女子短期大学・教授・金岡敬子)

山陽女子短期大学短期大学部・人間生活学科2年 檜木 葵依

「大学生活に必要なリーダーシップとは ー経験と学びからー」

私は、高校や短期大学での生活を通して、リーダーとしての役割を担う経験を多くしてきました。リーダーシップを取るには、何が大切なのかについて考えながら行動してきたことで、多くのことを学んでいます。短期大学は2年間しかありません。これまでの経験が来年春社会人として働き始めたときに大きな力として役立てたいと思っています。これまでの経験を通して得たことを今後に向けて活かすため、将来に向けた目標や決意についても発表します。

(指導者山陽女子短期大学・教授・金岡敬子)

中国学園大学 国際教養学部 3年 佐藤幸斗

「ゼミナールで地域活性化に取り組んでの学びの成長」

1年生の頃はあまり人と関わることもなく、口数も少なく、表情も硬かったです。2年生の頃に佐々木ゼミに入り、久米南町や美咲町の地域活性化に取り組み2泊3日での夏祭りの運営のサポートや花壇の整備などのサポートや、餅つきなどの地域のイベントへ参加しています。本発表ではゼミナールを通して得た学びと、以前の自分と比べての自身の成長について発表したいと思います。

(指導者：中国学園大学国際教養学部 教授 佐々木公之)

中国学園大学 国際教養学科 3年 永元健士朗

「美咲町の地域活性化提案と地域での学び」

2024年度ゼミ活動で美咲町の地域活性化を行っております。7月には高齢者を対象とした「スマホ教室」の開催、8月にはゼミ活動とインターンシップを合わせ3泊4日で農業体験やお祭りのサポートをさせていただきました。実際に活動する中で見つけた地域の魅力を活かした地域活性化提案し、半年間での活動を通して感じた学びを発表したいと思います。

(指導者：中国学園大学国際教養学部 教授 佐々木公之)

PBL 研修会

PBL 実践事例を学ぶ「YouTube を活用して多言語での岡山市と周辺地域の魅力発信」

(担当：中国学園大学 佐々木公之)

今回のブロック研究会では、はじめての試みとして PBL の実践事例を学ぶをテーマに視察・体験式での研修会を行いました。この PBL の実践事例は、2022 年に中国学園大学佐々木公之教授が「YouTube を活用して多言語での岡山市と周辺地域の魅力発信（以下、本 PBL）」をテーマに、コロナ禍で観光客が激減した観光地を盛り上げようと岡山市を代表する観光地「岡山後楽園と岡山城」とその周辺地域（表町商店街など）を、学生たちがスマートフォンを使って撮影し、プロモーション動画を制作し、YouTube にて動画配信した取り組みになります。また、本 PBL では、おかやま観光コンベンション協会、地元の専門学校に通う留学生と連携し、8 か国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語、ベトナム語、ミャンマー語、ヒンディー語）で制作しました。その結果、令和 4 年度 学生イノベーションチャレンジ推進事業（岡山市）でグランプリを受賞した事例になります。

8 月 24 日（土）は、研究発表会終了後、7 名の参加者で岡山後楽園へ視察に行きました。岡山後楽園では、8 月 1 日～31 日までの期間、「幻想庭園」と銘打って、夜間開園し多くの観光客を呼び込む取り組みを行っています。ここでは、外国人観光客へのアプローチ、また、本 PBL での撮影方法・注意点について学びました。また、懇親会場への移動途中には、表町商店街の視察も行いました。



8 月 25 日（日）は、岡山城、岡山城備前焼工房、岡山市オリент美術館での視察を 8 名の参加者で行いました。岡山城は、「令和の大改修」と呼ばれる館内の大幅な修繕を行い、2022 年 11 月にリニューアルオープンしました。当日は、岡山城を運営管理する「おかやま観光コンベンション協会」にご協力いただき、館内説明、来場者動向、また、本 PBL の効果について説明を受けました。

その後、岡山城の下段にある「岡山城備前焼工房」に移動し、備前焼の作りを体験をしました。この備前焼作り体験は、本 PBL でも学生たちの満足度の高いものでした。研修会に参加した 8 名の参加者も備前焼作りを体験し、学生たちがどのような気持ちで取り組んだのか、学生が何に面白さを感じるのかを話し合いました。

最後に、岡山城の周辺にある岡山市が運営する「オリент美術館」を視察し、2 日間の PBL 研修会は無事終了しました。

